1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570108365		
法人名	有限会社 ライフイン国見ノ里		
事業所名	グループホーム国見ノ里		
所在地	秋田市豊岩小山字前田表158-3		
自己評価作成日	令和6年11月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和7年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①職員は、尊厳を保持するため、職員の現実世界の事実を認知症の方に見せつけるのではなく、その人の心の内を知り、内なる世界を尊重することが、認知症の本質であることを意識して対応しています。
②その人その人の豊かな人生経験で培った得意な事や楽しんできた趣味を入居後も継続できるよう働きかけ、取り組んでいます。
③認知症ケア理念のもと、ご利用者が自分らしく過ごせるよう支援しています。
④普段よりご利用者の身体状況や心理症状を観察し、変化があった際は協力医療機関と連携、隣接するショートステイあゆみの里とも連携を図りながら、安心安全を提供しています。
⑤日常会話の機会を多く持ち、回想法を活用しコミュニケーションを図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地から離れ、のどかな雰囲気の中で自然を感じながら生活できる環境にホームはありません。理念と共にホーム内に掲示されている介護五訓は職員の行動に活かされ、何かあったら立ち戻って考えることで日頃のケアに活かすことができるよう取り組んでいます。協力医療機関とも連携して健康管理が行なわれ、利用者、家族の安心に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:8,9,15)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症ケア理念と支援介護五訓(職員行動規範)を掲げ、事務室内に掲示し実践しています。 また、朝礼等に参加職員全員で唱和し、理解が深まるよう取り組んでいます。	職員は開設当初からの介護五訓を行動の指針とし、理念と共に皆で唱和して日々のケアに活かしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所にある八幡神社へお参り行ったり、ヘアサロンを活用しながら交流を図っています。 年末は、雄和地区社協よりタオルの寄贈があった。 1月12日17時ころ、やまはげの訪問があった。	ホーム自体が地域の一員として関わり続けており、利用者は近所の床屋を利用し、食材は地元の商店に届けてもらっています。代表が町内会総会に出席し、情報発信しながら地域との関係づくりに取り組むことを検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	看護大学4名、秋田福祉専門学校1名の実習を受入れた。 西部圏域協議体(西部友の会)に出席し、地域で助け合う仲間を知るについて話し合った。 西の認知症サポーターキャラバンメイト連絡会に出席した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に推進会議を開催した。 委員会と職場内研修の実施報告を行った。 国見ノ里だよりを配布し、行事の実施報告を行った。	会議には包括職員の他、民生委員、町内会長が参加しています。参加者から出される意見を運営に反映できるよう取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	視覚・聴覚障がい者への対応状況について(照会)等、依頼や照会があれば、全て回答した。 集団指導に参加し、事前にBCPIに関する質問票を提出した。	更新手続きや生保受給者の対応等、行政それぞれの担当部署と連携し、利用者支援に繋がっています。運営推進会議を通じて行政に働きかけたことにより、通りからホームに続く道路が整備されることになりました。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月末に虐待につながる『不適切なケア＝小さな虐待』自己チェックリストを実施した。 身体拘束廃止研修と高齢者虐待防止研修を年2回実施した。 身体拘束廃止委員会と高齢者虐待防止委員会を概ね3ヶ月に1回開催した。	特に誤解されるような言い方をしない等、言葉遣いに注意しています。研修を重ね、身体拘束及び虐待に繋がらないよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者のプライバシー保護と権利擁護に関する研修を12月に開催した。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書も併せて、十分に時間をかけて説明してから契約を締結しています。入居後にご本人やご家族から疑問等があった際は、不安軽減のため親切で丁寧に対応しています。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	11月から苦情処理解決に取り組む。 11月から12月までで利用者からの苦情が5件あった。	家族の意見、要望は面会時、受診時に聞いており、メールで相談されることもあります。苦情処理解決に向けてミーティングで話し合っています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月1回職員会議を開催し、現状把握や課題分析に関して職員の意見をもとに検討したり、意見交換しています。また、委員会からの報告等を通して意見を出し合い、施設運営に反映させています。	職員会議で出された事案は、全員で話し合っ て検討し、業務に繋げることにしています。必要な改善を行ない、運営に反映させていま す。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアパートナーズの勉強会や南部圏域グループホーム勉強会で行われる研修会に参加し、他事業所と情報交換しています。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問調査を行い、ご利用者やが家族の思い、生活状況等の把握に努めています。 パンフレットには、取組みの欄に『苦情処理解決』を記載し、重要事項説明書には担当者を記載した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の訪問調査や面談では、ご利用者やご家族の介護に関する意向を確認し、時間をかけて話し合っています。不安軽減のために実際に生活する環境を確認する意味で、施設見学を勧めています。 ご家族の要望に応じて、ショートメールで日常の様子を伝える等して工夫しています。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	回想法を活用し日常会話を多くしている。 ご利用者と一緒に食器拭き等の作業を行い、共に生活している者同士の関係づくりに努めている。 郷土に触れることができるように秋田県内の写真を掲示している。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とはご利用者の様子について、その都度電話連絡で相談したり、広報誌を送付し近況報告しています。ご家族の要望に応じて、別室を用意し15分程度2名までの面会を実施しており、その際に近況報告し情報交換に努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	在宅生活時に通っていたパーマ屋さんに行けるよう外出支援を行った。 家族とランチをするための外出支援を行った。	利用者、家族の希望もあり、墓参りや行きつけの美容院に入居後も一緒に出かけています。入居してから近所の床屋を利用するようになったことで新たな馴染みをつくっている利用者もいます。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が交流できるよう、10時半と15時のティータイム、少人数の散歩(午前・午後)、15時半の唱歌レクの機会を活用し、職員が交流の仲介を行った。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時、ご家族には必要に応じて、相談を受け入れる体制にしている事を伝えていきます。 今年度は、実績が無かった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で会話や表情等を観察し、ご利用者の思いや意向の把握に努めています。どうしても意思の疎通が困難な場合は、ご家族から情報をいただきながら、その情報を参考にして、ご利用者の立場になって検討しています。	日常の何気ない会話の中から、或いは日々の関わりの中で利用者の思いを把握しています。聞き取ったことや気づいたことを口頭で伝え、記録にも残して暮らし方に反映させています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族や担当介護支援専門員、メディカルソーシャルワーカー等を通してご利用者の生活歴や入所経緯について情報収集をしています。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	担当介護職員からの意見のもと、ご本人やご家族の介護に対する意向や意見、要望を聞き取り、アセスメントしカンファレンスで話し合い、介護計画を作成しています。	担当職員と管理者がモニタリングを行ない、職員会議で意見交換して計画作成していません。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や業務日誌には、その日の行動や変化を記載し、ご利用者の状態把握に努めています。朝と夕の申し送りや情報共有をしています。その他、職員会議にてカンファレンスを開催し課題抽出と支援策を意見交換しながら検討しています。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の趣味嗜好を聞き取りし、地域のヘアサロンや百元ショップ等にご本人と一緒に買い出しに行った。 10月に投票の要望があり、秋田市西部市民サービスセンターにて期日前投票を行った。 事前に選挙管理担当者と電話にて事前打ち合わせを行った。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医、協力医療機関について説明する。熊谷内科は2週毎1回の訪問診療、伊奈皮膚科は月1回の往診、旭北歯科は随時往診がある。急変時は熊谷内科・熊谷医師と連携を図り、24時間オンコール体制を取っています。入院は中通総合病院（協力医療機関）で受け入れている。	入居時に家族の了解を得て協力医に変更しています。それぞれの医療機関、薬局と連携し、適切に支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所は看護職を配置していません。そのため熊谷内科と伊奈皮膚科と連携を図り、指示を受けています。 場合によっては、隣接するショートステイあゆみの里の看護職から助言をもらうことがあります。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、情報提供(介護要約)を作成し、医療機関(医師、看護師、医療相談員室等)と連携を図ります。また、定期的に(1週間に1回)面会し病状経過や必要物品の補充等、病棟看護師と医療連携室といつでも連絡が取れるようにします。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り介護に関する意向確認をしています。 ご利用者とご家族の意向を確認した上で、当事業所では対応可能な範囲で出来る限り支援します。特にご家族とかかりつけ医と連携を図り、情報を共有し支援できるように努めます。	法人の他施設への移動も可能であり、家族の希望に応じて対応し、看取り支援も行なっています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	8月に秋田市南西圏域認知症ケア勉強会と秋田市消防署本部高齢化社会対策ワーキンググループと共同で『救急時の対応、認知症高齢者の災害対応を考える』研修を企画、開催、参加した。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間で日中想定総難訓練、夜間想定避難訓練、洪水時避難誘導訓練、合計3回を予定した。 7月に洪水時避難誘導訓練を実施した。夜間想定避難訓練は2月10日に消防署員立会で実施予定。 日中想定避難訓練は3月末に実施する予定。	近隣住民の高齢化に伴い、火災時の避難の際の協力を得るのは難しい状況ですが、運営推進会議ではこれまで災害対策について話し合っており、特に水害については地域の問題として捉えています。代表が町内会総会に出席することになっており、あらためて災害対策についても話し合いを進めていくことにしています。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待につながる『不適切なケア=小さな虐待』自己チェックリストを活用している。 プライバシーや自尊心の配慮について、高齢者虐待防止委員会や権利擁護委員会、認知症ケア委員会で話題にし検討する。	職員の価値観を押し付けない、否定しない介護を心がけています。入浴時の異性介助については入浴表で確認できるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や整容には気を付けています。起床時の整髪、入浴時の髭剃り、ヘアサロンでのヘアカット等、自分自身の魅力を再認識できるよう工夫しています。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は調理員がいるため一緒に行っていないが、食後の後片付けや、おしぼり畳みや洗濯物干しを手伝っていただいています。また、畑で育てた野菜を収穫し食材として提供しています。	山菜の下処理や畑で収穫した野菜で季節を感じてもらっています。園庭で食事をしたり、流しそうめん等で利用者が楽しく食事できる場面をつくっています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事の摂取量や水分量を把握できるよう記録し、それを参考に不足しないように努めています。また、ご利用者の嚥下や咀嚼、健康の状態、嗜好等を考慮し対応しています。季節感を感じていただけるよう、誕生会や敬老会、流しそうめん等、行事食を提供し美味しく楽しく食べていただけるよう工夫しています。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きや義歯洗浄を実施しています。一人でできる方には声掛けをし、介助が必要な方には、職員が毎回誘導し介助を行っています。また、食事の前には口腔体操をしています。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、ご利用者の排泄時間やパターンを把握し、個々の状態に合わせて誘導や介助をしています。また、移動時、介助時は自立支援の声がけを行っています。	一人ひとりの状態に合わせて支援しており、できる限りトイレで排泄できるようタイミングを見て誘導しています。失禁の量に応じてパッド等の用品の選定をしています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックし必要に応じてかかりつけ医から指示・助言をいただきつつ処方につなげている。毎朝や間食時、乳製品やヨーグルト、果物、オートミール(食物繊維)やきのこ料理を提供している他、水分補給や散歩(運動)等も勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者は週2回から3回入浴しています。ご利用者のその日の気分や入浴時間、体調に配慮して対応しています。入浴を遠慮しても声を掛ける時間とタイミング、声掛けする職員を変える等して入浴につなげる努力をしています。	全員湯船に浸かり、安全に入浴できるよう支援していますが、困難な場合は隣接する施設の特浴を利用することもあります。拒否する方には職員の工夫によって入浴に繋げることができています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の疲労感や前夜の睡眠状態を考慮し、日中いつでも休息できるようにしています。しかしながら、休息と活動のバランスを考えた上で日中はできるだけ活動的に過ごせるよう支援しています。夜間は個々に合わせた温度や湿度、明るさ、雑音等を配慮して安眠できるよう工夫しています。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルとお薬手帳を処方薬情報を綴っています。介護職員が常に確認できるようにしています。薬の変更があった場合は、必ず朝礼で申し送り、連絡ノートや服薬確認表に記入しています。また、ご利用者の心身状態の変化(ふらつきや眩暈等)があった場合は、副作用の確認にも役立っています。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の在宅での生活習慣や生活歴から得意分野を見出しつつ、ご利用者自身の何か役に立ちたいという思いを汲み取り支援しています。食器拭きや洗濯物たたみを手伝っていただいた際、職員は必ず笑顔で感謝の意を言葉で伝えています。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者の希望に応じて外出しています。個人、小グループ、全体と分けて対応しています。要望や意見を聞き取りし、自分の家に行って大切な品物を取りに行く、近所の八幡神社へお参りに行く、桜を見に行く、マクドナルドで食事をする等実施した。ご家族からの要望で、一緒にパーマ屋さんに行ったり、ランチやショッピングする際の外出支援を実施した。	外の空気に触れることができるよう、工夫しながら外出支援しています。散歩や園庭でお茶や食事をし、畑の草取りをする方もいます。個別の希望に応じたり、家族との外出も支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方やご家族より精神安定のために少額を持たせたい等の要望があった場合は、所持しています。その他、入所時にご家族に金銭管理についての長所と短所を説明し、ご利用者にご家族の意向を尊重しています。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂ホールをはじめ各居室の窓からは、畑の作物や田んぼ、草花等が見え季節の移り変わりを感じられる。施設内全体にはエアコンと暖房器具を完備している。1月にハイブリッド加湿器を加熱式加湿器へ買換えした。10月に食堂とホールに設置してある温度計室温計をデジタルに新たに購入した。	ほとんどの利用者はホールで日中を過ごしており、桜の造花がホールの目印になっています。利用者と一緒に季節毎に飾りつけをし、温湿度管理をして快適に過ごせる環境をつくっています。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食事をするテーブルと、個々にテレビなどが見れるソファ2台を準備した。気の合う方同士と一緒に座り会話したり、並んで座り一緒に歌を歌ったり楽しまれていた。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用していたご自分のタンスや備品等をなるべく持って来ていただき、ご自分の部屋として馴染むように自由にいただいています。	家族と持ち物の配置を決め、生活に慣れた利用者の模様替えの希望に応える等、利用者が安心して過ごせる居室づくりをしています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備面では、手摺、スロープ、バリアフリー等を設置している。援助技術面では、できない部分は支援するも過剰な介助にならないよう努めている。 安全対策として、転倒リスクの高いご利用者に対してご家族の了承のもとモニターカメラ3台を設置した。 施設内には4箇所(トイレ前、廊下、食堂、厨房)モニターカメラを設置した。		